
Cloninger の気質と性格の 7 次元モデルおよび
日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI)

木島伸彦 斎藤令衣 竹内美香 吉野相英
大野 裕 加藤元一郎 北村俊則

季刊 精神科診断学 第 7 卷 第 3 号 別刷

(1996 年 9 月)

日本評論社

〒170 東京都豊島区南大塚 3-12-4
電話 03-3987-8598

Cloninger の気質と性格の 7 次元モデルおよび 日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI)

木島伸彦*¹ 斎藤令衣*¹ 竹内美香*² 吉野相英*³
大野 裕*⁴ 加藤元一郎*⁵ 北村俊則*¹

要旨: Cloninger の気質と性格の 7 次元モデル seven-factor model of temperament and character は, パーソナリティの構成概念を気質と性格に分け, それぞれ 4 次元と 3 次元の下位次元を想定している。Cloninger の理論における気質とは, 遺伝性であり, 主として幼年期に顕われ, 認知記憶や習慣形成の際に前概念的バイアスを伴うものである。気質の 4 次元は, (1)行動の触発(新奇性追求), (2)維持(報酬依存), (3)抑制(損害回避), (4)固着(固執)である。また, Cloninger の理論における性格とは, 自己概念について洞察学習することによって, 成人期に成熟し, 自己の或いは社会の有効性に影響するものである。性格の 3 次元は, 自己を同定する程度によって異なる, つまり(1)自律的個人(自己志向), (2)人類社会の統合的部分(協調), (3)全体としての宇宙の統合的部分(自己超越)である。この Cloninger の理論に基づくパーソナリティ構造を測定するための自己記入式質問紙 Temperament and Character Inventory (TCI) を日本語に翻訳し, 再英訳による確認作業の後, 日本人のサンプルを用いて日本語版 TCI の信頼性・妥当性検定を行なった。その結果, 高い内的整合性および, 構成概念妥当性が確認され, 軽度精神症状および, 社会的望ましき反応バイアスからの低い被影響性がみられ, 日本語版 TCI の適用の可能性が保証された。

季刊 精神科診断学 7; 379-399, 1996

Key words: seven-factor model, temperament, character, reliability, validity

1. Cloninger の気質と性格の 7 次元モデル

Cloninger ら (1993) は, 1987 年にみずからが開

発した自己記入式質問紙 Tridimensional Personality Questionnaire (TPQ) (Cloninger, 1987) を発展させ, 自己記入式質問紙 Temperament and Character Inventory (TCI) を開発した。日本語版

1996 年 7 月 24 日受理

Cloninger's seven-factor model of temperament and character and Japanese version of Temperament and Character Inventory (TCI).

* 1 国立精神・神経センター精神保健研究所

(〒 272 千葉県市川市国府台 1-7-3)

Nobuhiko Kijima, Raye Saito, Toshinori Kitamura: National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry. 1-7-3 Kohnodai, Ichikawa, Chiba 272 Japan

* 2 産能短期大学

(〒 141 東京都世田谷区等々力 6-39-15)

Mika Takeuchi: Sanno Junior College. 6-39-15 Todoroki, Setagaya-ku, Tokyo 141 Japan

* 3 防衛医科大学精神科

(〒 359 埼玉県所沢市並木 3-2)

Aihide Yoshino: Department of Psychiatry, National Defense Medical College. 3-2 Namiki, Tokorozawa, Saitama 359 Japan

* 4 慶應義塾大学医学部精神神経科

(〒 160 東京都新宿区信濃町 35)

Yutaka Ono: Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine. 35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160 Japan

* 5 東京歯科大学市川総合病院

(〒 272 千葉県市川市菅野 5-11-13)

Motoichiro Kato: Ichikawa General Hospital, Tokyo Dental College. 5-11-13 Sugano, Ichikawa, Chiba 272 Japan

TPQの信頼性および妥当性はすでに確認されている(竹内ら, 1992; Takeuchiら, 1993)。TPQを用いた研究は広く行なわれている。たとえば, 物質依存症(Cannonら, 1992; McCourtら, 1993; Hesselbrockら, 1992; Nagoshiら, 1992; Nixonら, 1990; Pomerleauら, 1992; Zaninelliら, 1992; Yoshinoら, 1994), 摂食障害(Kleifieldら, 1993; Wallerら, 1993), 感情障害(Pfohlら, 1990; Bagbyら, 1994; Brownら, 1992; Joffeら, 1993), などとの関連で研究が行なわれている。本稿では, TPQからTCIへと改訂がなされるにあたって, 変更があった部分に焦点を当てCloningerの理論を紹介するとともに, 日本語版TCIの信頼性と妥当性を確認する(TPQおよびCloningerの気質に関する理論は, 竹内ら(1992)を参照されたい)。

TPQでは, パーソナリティの一部として気質の3次元(新奇性追求・損害回避・報酬依存)のみが測定されていたが, TPQからTCIへの改訂されるにあたって, Cloningerの気質と性格の7次元モデル seven factor model of temperament and character に基づき, 新たに性格を測定する尺度が加えられている。また, 気質を測定する尺度においても若干の変更があり, 従来の3次元に加えて, 固執を測定する尺度を加えている。

Cloningerの気質と性格の7次元モデルにおけ

る気質とは, 遺伝性であり, 主として幼年期に顕われ, 認知記憶や習慣形成の際に前概念的バイアスを伴うものである。気質の4次元は, 行動の(1)触発, (2)抑制, (3)維持, (4)固着であり, それぞれ, 新奇性追求 Novelty Seeking(NS), 損害回避 Harm Avoidance (HA), 報酬依存 Reward Dependence (RD), 固執 Persistence (P) の尺度によって測定されるものである。このうち, 新奇性追求(NS), 損害回避(HA), 報酬依存(RD)は, TPQにより測定されていたものであり, これらの気質はそれぞれ, 中枢神経内の dopamine, serotonin, norepinephrine の神経伝達物質の分泌と代謝に依存しているものと想定されている。固執という新しい尺度は, 気質を測定する4番目の尺度としてTCIに加えられているが, 元来この固執尺度は, 報酬依存の1つの下位尺度(RD2)としてTPQでも測定されていた。気質を3次元で測定するか4次元で測定するかについては, Stallingsら(1996)が, 双子のデータを用いて詳細に検討し, 固執尺度は, 他の報酬依存の下位尺度との相関が低く, また, 因子分析の結果からも固執尺度が独立していることを示している。

Cloningerは, これらの4つの気質のうち, NS, HA, RDの3つの次元の組み合わせによるパーソナリティの傾向を図1のように表わしている。そして, それぞれの気質特性が極端になると, DSM

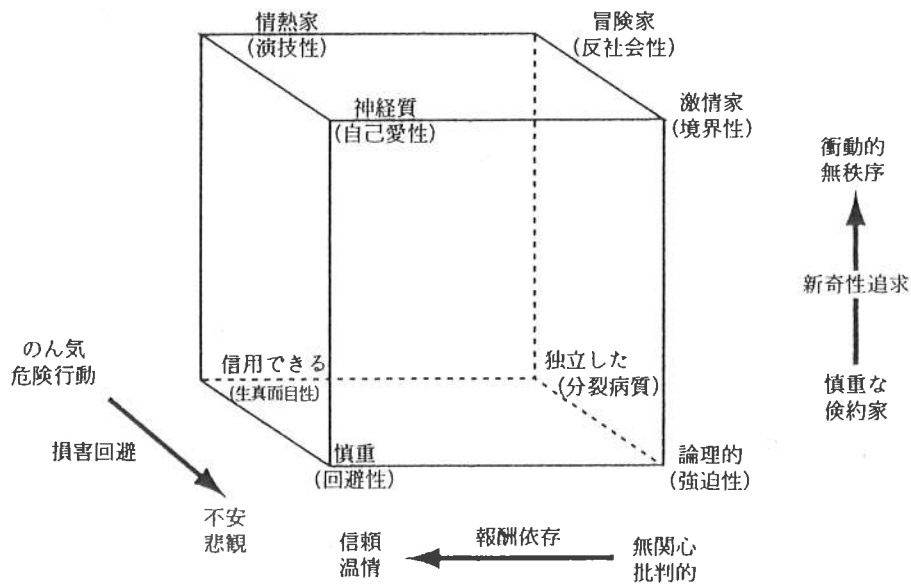


図1 気質特性の組み合わせによるパーソナリティ特徴 (Cloninger博士の許可を得て作成)

-III-R (American Psychiatric Association, 1987)の何らかの人格障害を有する可能性を示唆している。

これに対して、Cloningerの理論における性格とは、自己概念について洞察学習することによって、成人期に成熟し、自己の或いは社会の有効性 effectiveness に関与するものである。自己洞察は、知覚の認知的組織化を伴い、関係性を理解することとも定義できる(Cloningerら, 1993)。Cloningerは、気質と性格との相互作用を図2のように表わしている。人は経験を概念的に再組織化し、新しい適応的な反応を学習することによって成長すると考えられるが、性格とは自己の異なる概念に関連する反応バイアスによって記述できるとしている。すなわち、人の行動を自動的に触発、抑制、維持、固着する反応が気質によって当初は決定されるが、これらの反応は、自己のアイデンティティの概念の変化によって調節することができる。気質が自己洞察学習行動すなわち性格の発達を動機づけるが、それによって性格が変容し、今度は逆に、性格が気質を調節するのである。このように、パーソナリティは気質と性格が相互に影響しあい発達すると考えられるのである。

性格の3次元は、自己を同定する次元によって異なる。すなわち、自己を(1)自律的個人、あるいは(2)人類社会の統合的部分、または(3)全体としての宇宙の統合的部分に、それぞれ同定する度合い

によって性格が特徴づけられ、自己志向 Self-Directedness (SD)、協調 Cooperativeness (C)、自己超越 Self-Transcendence (ST) の尺度によって測定される。

“自己志向”の基本概念は、自己決定と“意志の力 willpower”である。自己志向とは、各個人が選択した目的や価値観に従って、状況にあう行動を統制し、調整し、調節する能力のことである。自己志向は、次のような発達の過程として規定できる。(1)自己責任(対・他者非難)、(2)目的指向性(対・目的指向性の欠如)、(3)臨機応変、問題解決におけるスキルや自信の発達、(4)自己受容、(5)第二の天性を啓発すること、である。“第二の天性”とは、ヨーガにおける用語であり、みずからの目標と価値観を明確にすることによって顕在化する性質である。みずからの目標と価値観に一貫して自動的に反応することによって第二の天性を啓発し、本来もっている性質を超え、抑圧された葛藤を感じることなく自発的にみずからの目標と価値観に向かって行動できるようになる、と想定されている。

“協調”は、他者の確認と受容に関する個人差を説明するものとして規定されている。協調性のある個人は、寛容で、同情的で、協力的である。このような、社会的受容や、協力性、他人の権利に対する関心は、自尊心と高い相関がある。また、協力性や共感性はしばしば発達心理学において成熟のサインとみなされる。協調は、次のような発

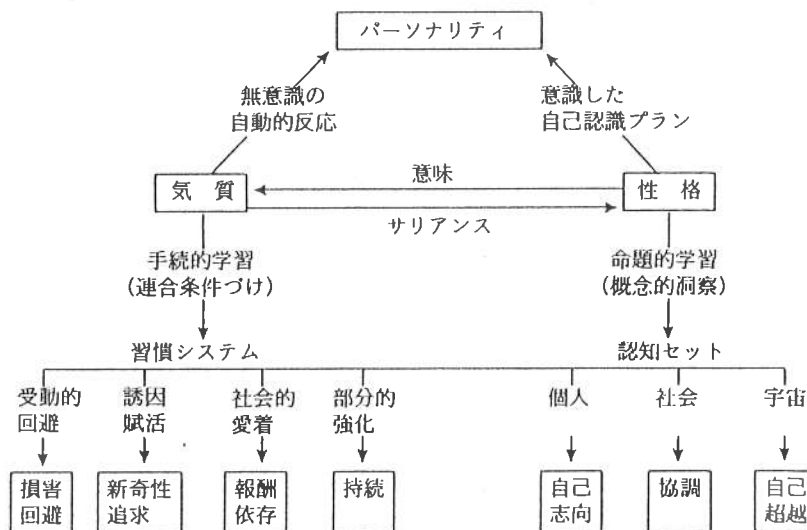


図2 パーソナリティにおける気質および性格との関連性 (Cloninger 博士の許可を得て作成)

達の過程として規定できる。(1)社会的受容性(対・社会的非寛容), (2)共感(対・社会的無関心), (3)協力(対・非協力), (4)同情心(対・復讐心), (5)純粋な良心(対・利己主義), である。

“自己超越”は、統一的全体の本質的、必然的部分として考えられるすべてのものを確認することとして規定されている。多くの人は瞑想をしたり、祈ったりするが、そのことによって、とくに老人においては人生の満足感や個人の有効性を高めることができる。しかしながら、いままでのパーソナリティ研究では、こうした現象が看過されてきた。Cloningerは、上記のような現象を積極的にパーソナリティ研究にとりいれている。自己超越には、すべてのものが一つの全体の一部であるとする“統一意識”の状態を含むが、統一意識では自己と他者を区別する重要性がないことから、個人的自己というものはない。人はたんに、進化する宇宙の統一的部分であると意識する。このような、統一的観点は、自然とその資源の受容、確認または霊的統合と記述されうる。自己超越は、次のような発達過程として規定される。(1)自己忘却(対・自己意識経験), (2)霊的現象の受容(対・合理的物質主義), (3)超個人的同一化(対・自己弁別), である。この尺度によって測定される現象は、とくに35歳以上の成人にとって、その人の適応状態と人生の満足度を知るうえで重要であると、Cloningerは示唆している。

また、Cloningerは、これら3つのSD, C, STという性格の次元の組合せによるパーソナリティの傾向を図3のように表わし、とくにCが低いと、人格障害のおそれがあると示唆している。Svrakicら(1993)によると、TCIによって測定されるSDの低さとCの低さが人格障害の核をなしているが、Neuroticism-Extraversion-Openness Personality Inventory(NEO-PI)(Costaら, 1985)ではどの尺度も人格障害と関連性がなかったと報告しており、TCIは人格障害を予測しうる点で、NEO-PIよりも優れていると考えられる。また、TCIの尺度のうち、中程度以上のSDを有していても、Cが低いと人格障害である可能性が増すことが報告されていることから、人格障害に最も関与が高いのがCであり、Cの低さが人格障害の核をなしていると考えられる。さらに、気質における各尺度の特徴によって、さまざまな人格障害の特徴を記述しうるとSvrakicらは述べている。

2. Cloningerの理論に基づく
パーソナリティの測定のための
Temperament and Character Inventory
(TCI)

Temperament and Character Inventory (TCI)は、NS 40項目, HA 35項目, RD 24項目, P 8項目, SD 44項目, C 42項目, ST 33項目および

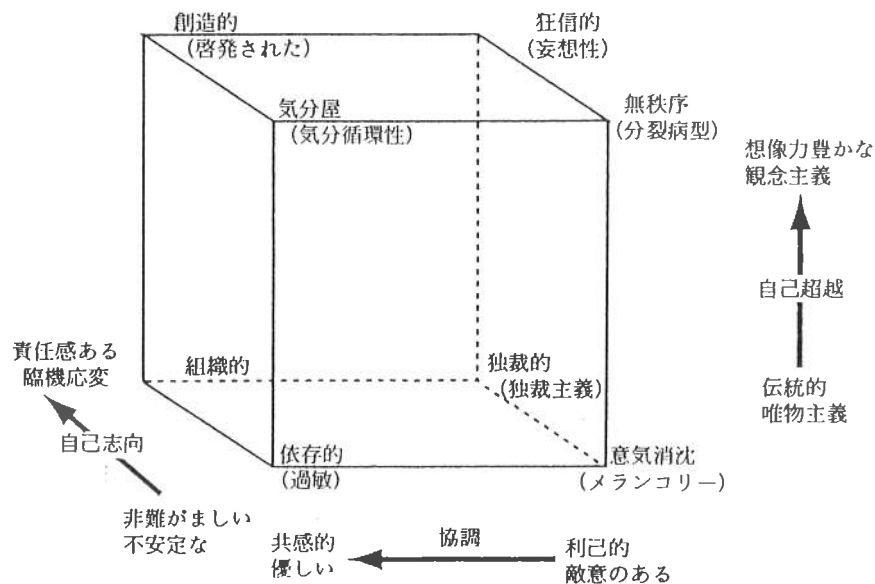


図3 性格特性の組み合わせによるパーソナリティ特徴 (Cloninger博士の許可を得て作成)

Filler 14 項目の計 240 項目からなっている。同時に 125 項目短縮版も作成されている。原版では、240 項目版 125 項目短縮版ともに、「はい True」, 「いいえ False」で回答する 2 件法である。TCI の P 以外の 6 尺度は、さらに下位尺度をもっており、それぞれ 3~5 の下位尺度を有している (NS; NS1~NS4, HA; HA1~HA4, RD; RD1, RD3, RD4, SD; SD1~SD5, C; C1~C5, ST; ST1~ST3)。

Cloninger ら (1993) は、300 名の一般サンプルを用いて、TCI の信頼性および妥当性を検討したところ、内的整合性が比較的高く、promax 法による斜交回転を行なった因子分析では、7 因子が確認されている。

そこで、われわれ (NK と TK) は TCI を日本語に翻訳し、英語版原版を参照せずに、RS が日本語版を再英訳した。この back translation の作業後、TCI の開発者である Cloninger が、翻訳版の内容が原典版と相違ないものであることを確認した (日本語版 TCI は、付表 1, 採点の手続きは付表 2)。

質問紙は、125 項目版と 240 項目版のそれぞれの信頼性および妥当性を確認するために次の 3 つのサンプルにそれぞれ配布された。

サンプル A: 総計 395 名の大学生 (男性 68 名, 女性 324 名, 不明 3 名) が調査に参加した。平均

年齢は、21.33 歳 (SD=1.66), 19~37 歳の範囲であった。

サンプル B: 総計 377 名の大学生 (男性 180 名, 女性 189 名, 不明 8 名) が調査に参加した。平均年齢は、20.37 歳 (SD=10.11), 18~31 歳の範囲であった。また、因子構造を確認するために、TCI を 4 件法で測定した。

サンプル C: 総計 555 名 (男性 211 名, 女性 337 名, 不明 7 名) が調査に参加した。平均年齢は、31.01 歳 (SD=13.85), 18~80 歳の範囲であった。学生が 235 名, それ以外が 420 名であった。また、軽度精神症状および社会的望ましさ反応との関係を確認するために General Health Questionnaire (GHQ) (Goldberg ら, 1979), Social Desirability Scale (SDS) (Crowne ら, 1960; 北村ら, 1986) をともに測定した。

以下の解析ではすべて、SPSS for the Macintosh が用いられた。

(1) 内的整合性

それぞれのサンプルにおける、Cronbach の α 係数は、表 1 に示したとおりである。2 件法による 125 項目版の α 係数は、HA と SD 以外は総じて低いものの、4 件法による 125 項目版、2 件法による 240 項目版では、P 以外は、総じて高い値を示していた。

表 1 日本語版 TCI の α 係数

	サンプル A		サンプル B		サンプル C	
	2 件法 (125 項目, N=395)		4 件法 (125 項目, N=377)		2 件法 (240 項目, N=555)	
	平均年齢	21.33	平均年齢	20.37	平均年齢	31.01
	(SD=1.66)		(SD=10.11)		(SD=13.85)	
	男性	68 名	男性	180 名	男性	211 名
	女性	324 名	女性	189 名	女性	337 名
	不明	3 名	不明	8 名	不明	7 名
新奇性追求 (NS)	0.69		0.78		0.71	
損害回避 (HA)	0.83		0.85		0.85	
報酬依存 (RD)	0.66		0.71		0.73	
持続 (P)	0.48		0.69		0.64	
自己志向 (SD)	0.78		0.82		0.83	
協調 (C)	0.62		0.81		0.82	
自己超越 (ST)	0.75		0.82		0.82	

(2) 尺度間相関

4件法の125項目版のTCIの尺度間相関は、表2に示したとおりである。TCIの尺度間相関は総じて低かったが、SD-HA、RD-Cの相関は比較的高く、自己志向性が高いと損害回避性が低くなり、報酬依存性が高いと協調性が高くなることが示唆された。

(3) 性差

2件法の240項目版TCIの各尺度における性差は、RDとCにおいて有意に男性の方が女性よりも高い得点を有していた(RD; 男性 $N=204$, $M=35.01$, $SD=4.17$, 女性 $N=323$, $M=33.21$, $SD=3.88$, $t=5.06$, $P<0.001$; C; 男性 $N=196$, $M=57.62$, $SD=6.32$, 女性 $N=313$, $M=55.58$, $SD=5.50$, $t=3.73$, $P<0.001$: NS; 男性 $N=205$, $M=58.39$, $SD=5.37$, 女性 $N=318$, $M=58.01$, $SD=5.31$, $t=0.79$, $P=0.431$: HA; 男性 $N=204$, $M=51.70$, $SD=6.28$, 女性 $N=323$, $M=51.35$, $SD=6.48$, $t=0.61$, $P=0.540$: P; 男性 $N=208$, $M=11.54$, $SD=1.90$, 女性 $N=322$, $M=11.74$, $SD=2.08$, $t=1.10$, $P=0.274$: SD; 男性 $N=195$, $M=61.82$, $SD=7.06$, 女性 $N=311$, $M=60.93$, $SD=6.82$, $t=1.42$, $P=0.157$: ST; 男性 $N=201$, $M=53.84$,

$SD=5.77$, 女性 $N=314$, $M=53.88$, $SD=5.44$, $t=0.09$, $P=0.932$ 。

(4) 構成概念妥当性

TCIの構成概念妥当性を確認するために、TCI 125項目版の4件法のデータをStallingsら(1996)の手法に従って、因子分析を行なった。ここにおいて、TCI 125項目版の4件法のデータを用いたのは、2件法では因子分析をする際に、安定した結果が得られないからである(2件法で測定したTCIの因子分析結果は、著者に請求された)。

TCIの気質を測定する尺度と性格を測定する尺度のあいだに相関するものがあつたので、因子分析は、気質を測定する尺度と性格を測定する尺度を分けて分析した。気質と性格の因子数をそれぞれ4と3に設定して、それぞれの尺度が有する下位尺度をOblimin法の斜角回転によって因子分析を行なったところ、表3と表4にみられるような結果が得られた。気質と性格の尺度のいずれもCloningerの理論と測定結果は完全に一致していた。男性と女性を別々に行なっても同様の結果が得られた。

表2 日本語版TCIの尺度間相関(4件法, 125項目)

	NS	HA	RD	P	SD	C	ST
NS	1.00						
HA	-0.37 $P=0.00$	1.00					
RD	0.14 $P=0.01$	-0.01 $P=0.83$	1.00				
P	-0.17 $P=0.00$	-0.10 $P=0.05$	0.10 $P=0.06$	1.00			
SD	0.06 $P=0.24$	-0.55 $P=0.00$	0.06 $P=0.28$	0.20 $P=0.00$	1.00		
C	-0.07 $P=0.21$	-0.18 $P=0.00$	0.50 $P=0.00$	0.33 $P=0.00$	0.31 $P=0.00$	1.00	
ST	0.19 $P=0.00$	-0.10 $P=0.06$	0.15 $P=0.00$	0.21 $P=0.00$	-0.03 $P=0.64$	0.16 $P=0.00$	1.00

(5) 軽度精神症状, および社会的望ましさ反応との相関

軽度精神症状を測定するGHQの得点とTCI尺度得点との相関はHAとGHQの相関を除けば総じて低かった(NS-GHQ: $r=0.03$, $df=513$, $P=0.463$; HA-GHQ: $r=0.46$, $df=518$, $P<0.001$; RD-GHQ: $r=0.04$, $df=517$, $P=0.342$; P-GHQ: $r=0.06$, $df=518$, $P=0.174$; SD-GHQ: $r=0.48$, $df=500$, $P<0.001$; C-

GHQ: $r=0.28$, $df=499$, $P<0.001$; ST-GHQ: $r=0.04$, $df=506$, $P=0.359$).

HAとGHQの相関が高かったのは, HAには易疲労性・無力症の下位尺度があることに由来すると考えられる。

また, SDSによって測定される社会的望ましさ反応バイアスとの相関は低かった(NS-SDS: $r=0.08$, $df=523$, $P=0.063$; HA-SDS: $r=0.08$, $df=527$, $P=0.080$; RD-SDS: $r=0.01$, $df=$

表3 因子構造行列(気質)(4件法;125項目短縮版, $N=377$)

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4
HA2	0.818			
HA1	0.779			
HA3	0.719			
HA4	0.705			
RD4		0.768		
RD3		0.680		
RD1		0.669		0.407
NS4			0.793	
NS3			0.750	
NS1	-0.439		0.596	0.485
NS2	-0.446		0.554	
P				0.846

注) 因子負荷量が0.4に満たないものは, 表から除かれている。

表4 因子構造行列(性格)(4件法;125項目短縮版, $N=377$)

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3
CO3	0.764		
CO4	0.764		
CO1	0.675		
CO5	0.648		
CO2	0.615		
ST3		0.827	
ST1		0.803	
ST2		0.791	
SD5			0.777
SD3			0.751
SD1			0.714
SD2			0.712
SD4			0.602

注) 因子負荷量が0.4に満たないものは, 表から除かれている。

526, $P=0.843$; P-SDS: $r=0.12$, $df=530$, $P=0.008$; SD-SDS: $r=0.02$, $df=506$, $P=0.658$; C-SDS: $r=0.07$, $df=510$, $P=0.102$; ST-SDS: $r=0.13$, $df=515$, $P=0.003$ 。

このように、日本語版 TCI は、高い内的整合性および構成概念妥当性が確認され、軽度精神症状および社会的望ましき反応バイアスからの影響が低いことから、日本語版 TCI の適用が可能であることが示唆された。

すでに Cloninger の理論と一致して、TCI の新奇性追求の尺度が dopamine 受容体と関連があると遺伝子レベルで確認されている (Benjamin ら, 1996; Ebstein ら, 1996)。Cloninger ら (1996) は、Benjamin らと Ebstein らがそれぞれ独立に、新奇性追求の妥当性を遺伝子レベルで実証したことに触れ、今後 TCI が、パーソナリティを神経生理学および遺伝子研究によって明らかにしていく際の道具としてますます用いられることを奨励している。

渡邊ら (1993) は、Mishel (1968) によるパーソナリティ研究における「パーソナリティの一貫性論争」に触れ、従来の「パーソナリティの一貫性論争」において、「パーソナリティを見る視点」の問題を提起している。パーソナリティ研究者において、それぞれが異なる視点 (1人称, 2人称, 3人称的視点) からパーソナリティをみていたために、たとえば、パーソナリティの通状況的一貫性を継時的安定性と混同してしまうというような、議論がかみ合わない混乱があったのだと指摘している。

渡邊らが指摘するようにパーソナリティを研究する際には、研究者の視点が常に問題となり、なかなか異なる立場の研究者の成果が累積しないということがあった。ところが、TCI では、渡邊らが指摘したパーソナリティ研究者の「パーソナリティを見る視点」が、少なくとも気質を対象とする場合、問題とならなくなる。何故なら、気質を規定する中枢神経内の dopamine, serotonin, norepinephrine の神経伝達物質の分泌と代謝は遺伝子によって決定されており、一生変わることがない。よって、気質の分散の一部を神経伝達物質の分泌

と代謝が説明できるとした場合、渡邊らが指摘する 3人称的視点によるパーソナリティ研究がすすめられるので、研究者の視点の問題は解消され、客観的にパーソナリティを測定することが可能になるのである。よって、従来のパーソナリティ研究で問題になっていた、遺伝と環境のパーソナリティに対する影響の問題を TCI がかなり明確にしてくれる可能性をはらんでいる。実際、Benjamin らと Ebstein らが報告しているように、もちろん測定誤差の問題もあるであろうが、遺伝子によって気質のすべてが決定されるわけではない。遺伝つまりは神経伝達物質の分泌と代謝によって説明された気質の残りの分散は環境要因や Cloninger が指摘するように自己概念発達要因によって説明されることになる。今後は、そうした環境要因や自己概念発達要因がどれだけ気質に影響するのかについての研究が可能になってくる。

このように気質特性の測定における客観性の問題は、遺伝子研究や神経生理学が多くを解決してくれるであろうが、性格特性の測定における客観性については充分であるとはいえない。ここにおいて、渡邊らが指摘した「パーソナリティを見る視点」の問題が再浮上してくるが、Svrakic ら (1993) が示しているように、TCI という自己記入式質問紙が人格障害をある程度予想することができることを提示していることから、TCI の性格測定尺度としての客観性をある程度保障しているとも考えられる。

また、Malone ら (1995) は自殺の危険因子の一つとして、serotonin との関連性を示唆している。しかしながら、serotonin の生理的反応を測定することが、臨床場面では非常に困難であり、現在までのところ、serotonin との関連性を有しているパーソナリティ測定尺度は TCI をおいて他にないことから、自殺予防の観点からも TCI の有用性は重要であろう。さらに、Nelson ら (1995) は、TPQ で測定された気質特性が、抗うつ剤の nefazodone への反応性を RD と HA およびその交互作用が予測できると報告している。このように、TCI というパーソナリティ測定道具は、人格障害の研究だけでなく、現場の臨床場面でもその応用範囲は広いといえる。

文献

- American Psychiatric Association (1987). *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. Third Edition, Revised*. American Psychiatric Association: Washington, D.C.
- Bagby, R. M., Schuller, D. R., Parker, J. D. A., Levitt, A., Joffe, R. T. & Shafir, M. S. (1994). Major depression and the self-criticism and dependency personality dimensions. *American Journal of Psychiatry* 151, 597-599.
- Benjamin, J., Li, L., Patterson, C., Greenberg, B. D., Murphy, D. L. & Hamer, D. H. (1996). Population and familial association between the D4 dopamine receptor gene and measures of Novelty Seeking. *Nature Genetics* 12, 81-84.
- Brown, S. L., Svrakic, D. M., Przybeck, T. R. & Cloninger, C. R. (1992). The relationship of personality to mood and anxiety states: a dimensional approach. *Journal of Psychiatric Research* 26, 197-211.
- Cannon, D. S., Clark, L. A., Leeka, J. K. & Keefe, C. K. (1993). A reanalysis of the Tridimensional Personality Questionnaire (TPQ) and its relation to Cloninger's Type 2 alcoholism. *Psychological Assessment* 5, 62-66.
- Cloninger, C. R. (1987). A systematic method for clinical description and classification of personality variants. A proposal. *Archives of General Psychiatry* 44, 573-88.
- Cloninger, C. R., Svrakic, D. M. & Przybeck, T. R. (1993). A psychobiological model of temperament and character. *Archives of General Psychiatry* 50, 975-90.
- Cloninger, C. R., Adolfsson, R. & Svrakic, N. M. (1996). Mapping genes for human personality. *Nature Genetics* 12, 3-4.
- Costa, P. T., Jr. & McCrae, R. R. (1985). *The NEO Personality Inventory Manual*. Psychological Assessment Resources: Odessa, FL.
- Crowne, D. P. & Marlowe, D. (1960). A new scale of social desirability independent of psychopathology. *Journal of Consulting Psychology* 24, 349-354.
- Ebstein, R. P., Novick, O., Umansky, R., Priel, B., Osher, Y., Blaine, D., Bennett, E. R., Nemanov, L., Kats, M. & Belmaker, R. H. (1996). Dopamine D4 receptor (D4DR) exon III polymorphism associated with the human personality trait of Novelty Seeking. *Nature Genetics* 12, 78-80.
- Goldberg, D. P. & Hillier, V. F. (1979). A scaled version of the General Health Questionnaire. *Psychological Medicine* 9, 139-145.
- Hesselbrock, M. N. & Hesselbrock, V. M. (1992). Relationship of family history, antisocial personality disorder and personality traits in young men at risk for alcoholism. *Journal of Studies on Alcohol* 53, 619-625.
- Joffe, R. T., Bagby, R. M., Levitt, A. J., Regan, J. J. & Parker, J. D. (1993). The Tridimensional Personality Questionnaire in major depression. *American Journal of Psychiatry* 150, 959-60.
- 北村俊則, 鈴木忠治(1986). 日本語版 Social Desirability Scale について. *社会精神医学* 9, 173-180.
- Kleifield, E. I., Sunday, S., Hurt, S. W. & Halmi, K. A. (1993). Psychometric validation of the Tridimensional Personality Questionnaire: application to subgroups of eating disorders. *Comprehensive Psychiatry* 34, 249-253.
- Kozeny, J., Kubicka, L. & Prochazkova, Z. (1989). Psychometric properties of the Czech version of Cloninger's Threedimensional Personality Questionnaire. *Personality and Individual Differences* 10, 1253-1259.
- Malone, K. M., Haas, G. L., Sweeny, J. A. & Mann, J. J. (1995). Major depression and the risk of attempted suicide. *Journal of Affective Disorders* 34, 173-185.
- McCourt, W. F., Gurrera, R. J. & Cutter, H. S. (1993). Sensation seeking and novelty seeking: are they the same? *Journal of Nervous and Mental Disease* 181, 309-312.
- Mishel, W. (1968). *Personality and Assessment*. Wiley: New York.
- Nagoshi, C. T., Walter, D., Muntaner, C. & Haertzen, C. A. (1992). Validation of the Tridimensional Personality Questionnaire in a sample of male drug users. *Personality and Individual Differences* 13, 401-409.
- Nelson, E. C. & Cloninger, C. R. (1995). The tridimensional personality questionnaire as a predictor of response to nefazodone treatment of depression. *Journal of Affective Disorders* 35, 51-7.
- Nixon, S. J. & Parsons, O. A. (1990). Application of the Tridimensional Personality Questionnaire to a

- population of alcoholics and other substance abusers. *Alcoholism Clinical and Experimental Research* 14, 513-517.
- Pfohl, B., Black, D. W., Noyes, R., Kelley, M. & et, al. (1990). A test of the tridimensional personality theory: association with diagnosis and platelet imipramine binding in obsessive-compulsive disorder. *Biological Psychiatry* 28, 41-46.
- Pomerleau, C. S., Pomerleau, O. F., Flessland, K. A. & Basson, S. M. (1992). Relationship of Tridimensional Personality Questionnaire scores and smoking variables in female and male smokers. *Journal of Substance Abuse* 4, 143-154.
- Stallings, M. C., Hewitt, J. K., Cloninger, C. R., Heath, A. C. & Eaves, L. J. (1996). Genetic and environmental structure of the Tridimensional Personality Questionnaire: three or four temperament dimensions? *Journal of Personality and Social Psychology* 70, 127-40.
- Svrakic, D. M., Whitehead, C., Przybeck, T. R. & Cloninger, C. R. (1993). Differential diagnosis of personality disorders by the seven-factor model of temperament and character. *Archives of General Psychiatry* 50, 991-9.
- 竹内美香, 吉野相英, 大野 裕, 加藤元一郎, 北村俊則 (1992). Cloninger の 3次元 (TDP) 理論および日本語版 Tridimensional Personality Questionnaire (TPQ). *精神科診断学* 3, 491-505.
- Takeuchi, M., Yoshino, A., Kato, M., Ono, Y. & Kitamura, T. (1993). Reliability and validity of the Japanese version of the Tridimensional Personality Questionnaire among university students. *Comprehensive Psychiatry* 34, 273-279.
- Waller, N. G., Lilienfeld, S. O., Tellegen, A. & Lykken, D. T. (1991). The Tridimensional Personality Questionnaire: structural validity and comparison with the Multidimensional Personality Questionnaire. *Multivariate Behavioral Research* 26, 1-23.
- Waller, D. A., Gullion, C. M., Petty, F., Hardy, B. W. & et, al. (1993). Tridimensional Personality Questionnaire and serotonin in bulimia nervosa. *Psychiatry Research* 48, 9-15.
- 渡邊芳之, 佐藤達哉 (1993). パーソナリティの一貫性をめぐる「視点」と「時間」の問題. *心理学評論* 36, 226-243.
- Yoshino, A., Kato, M., Takeuchi, M., Ono, Y. & Kitamura, T. (1994). Examination of the tridimensional personality hypothesis of alcoholism using empirically multivariate typology. *Alcoholism Clinical and Experimental Research* 18, 1121-1124.
- Zaninelli, R. M., Porjesz, B. & Begleiter, H. (1992). The Tridimensional Personality Questionnaire in males at high and low risk for alcoholism. *Alcoholism Clinical and Experimental Research* 16, 68-70.

Summary

Cloninger's seven-factor model of temperament and character assumes that personality structure is divided into temperament (four dimensions) and character (three dimensions); temperament is heritable, manifests early in life, and involves preconceptual biases in perceptual memory and habit formation, while character matures in adulthood and influences personal and social effectiveness by insight learning about self-concepts. Four dimensions of temperament are behavioral activation (Novelty Seeking), inhibition (Harm Avoidance), maintenance (Reward Dependence), and perseverance (Persistence). Three dimensions of character vary according to the extent to which a person identifies the self as (1) an autonomous individual (Self-Directedness), (2) an integral part of humanity (Cooperativeness), and (3) an integral part of the universe as a whole (Self-Transcendence). The Temperament and Character Inventory (TCI) was translated into Japanese with the back-translation to secure content validity and confirmed reliability and validity of the Japanese version of TCI among different Japanese populations. The results showed that the Japanese version of TCI appeared to have internal reliability and content and construct validity.

謝 辞

本稿執筆にあたり、日本語版 TCI 項目 Scoring manual の公開を快諾して下さった C. R. Cloninger 博士 (Washington 大学医学部精神科教授) に、心よりお礼を申し上げます。また、国立神経・精神センター精神保健研究所田中江里子氏に草稿段階で貴重な示唆をいただきました。ここに記してお礼申し上げます。なお、本稿掲載の TCI に関する研究ならびに TCI を使用した研究を行なう場合には、本稿著者に必ずご連絡くださいますようお願いいたします。

付表1 TCI (Version 9-Revised 10-26-92) (日本語版 V1.0)

この冊子には、みなさんがご自分の態度、考え方、関心のあること、その他の個人的な感情を表すために使うことがある文が記載されています。

いずれの文も「はい」か「いいえ」で答えることができます。これを読み、どちらがあなたを最もよく表しているか決めて下さい。

このアンケートのご回答は鉛筆を使用してご自分で記入して下さい。全てにご回答のうえで、アンケートをお返し下さい。

[アンケートの記入方法]

答える方法は、それぞれの文の後に「はい」あるいは「いいえ」を○で囲むだけで結構です。下記に例を示します。

例：このアンケートの記入方法がわかった…………… はい いいえ
(もしもこのアンケートの記入方法がわかったら「はい」を○で囲みます。)

* * *

各文は注意して読んで下さい。ただし、回答を決めるために時間をかけすぎないで下さい。
「はい」か「いいえ」のどちらかに決めかねる文があっても、全ての文に必ず答え下さい。
正しい答えとか間違った答えはありません。あなた自身の意見と感じかたを答えて下さい。

- | | | | |
|-----|---|----|-----|
| 1. | たいていの人は時間の無駄だと思ふようなことでも、
興味やスリルのために新しいことをやってみることが多い…………… | はい | いいえ |
| 2. | たいていの人の方が心配するような状況でも万事好調に行く
という自信が普通はある…………… | はい | いいえ |
| 3. | 立派な演説や詩に深く心を打たれることが多い…………… | はい | いいえ |
| 4. | 自分が境遇の犠牲になっていると感じることが多い…………… | はい | いいえ |
| 5. | たとえ自分とはかなり違うような人でも、普通はその人を
その人として受け入れることができる…………… | はい | いいえ |
| 6. | 奇跡は起きるものだと思っている…………… | はい | いいえ |
| 7. | 私を傷つけた人々に、仕返しをするのが楽しい…………… | はい | いいえ |
| 8. | 何かに集中している時は、時間が経つのも忘れてしまうことが多い…………… | はい | いいえ |
| 9. | 自分の人生には目的や意味がほとんどないと感じる人が多い…………… | はい | いいえ |
| 10. | だれもが前進するように、問題への解決策を見つけることを
手助けすることが好きだ…………… | はい | いいえ |
| 11. | 今よりもっと出来るだろうが、
別にそれほど一所懸命やる必要はないと思う…………… | はい | いいえ |
| 12. | 他の人が別に心配することは少しもないと思うような時でさえ、
慣れない環境ではしばしば緊張し心配する…………… | はい | いいえ |
| 13. | 前にはどのような方法でやったかを考えずに、
その時の気分でやってしまうことが多い…………… | はい | いいえ |
| 14. | 人の希望に従うよりも、自分自身のやり方で
物事を進めることが普通だ…………… | はい | いいえ |
| 15. | 自分の周囲の人々と大変強く結びついていると感じることが多いので、
我々の間にはへだたりがないかのようだ…………… | はい | いいえ |
| 16. | 自分と違う考えをもっている人々は大体好きではない…………… | はい | いいえ |
| 17. | たいていの場合、私の自然な反応は、今までに培ってきた
良い習慣に基づいている…………… | はい | いいえ |

18. たとえ多くの古くからの友人たちの信頼を失うとしても、自分が
金持ちや有名になるためには合法的なことなら何でもする …………… はい いいえ
19. 他人に比べれば控えめで落ち着いている …………… はい いいえ
20. 何かうまく行かない気がして、やっていることを中止せざるを
得なくなる場合が多い …………… はい いいえ
21. 自分の経験や感情を自分の中にしまいこむより
オープンに友達と話し合うことが好きだ …………… はい いいえ
22. 精力がなく、人よりも早く疲れてしまう …………… はい いいえ
23. 自分のしていることに没頭しすぎて、他のあらゆることの流れを
忘れてしまうので、“ぼんやりしている”と言われることが多い …… はい いいえ
24. 自分のしたいことを選ぶ自由を感じることはめったにない …………… はい いいえ
25. 自分のことと同じくらい他人の気持ちを考えることが多い …………… はい いいえ
26. たいていの場合、2～3時間も静かにじっとしているよりは、
少し危険なこと（例えば急坂や急カーブを車でふっ飛ばすようなこと）
でもやってみたい …………… はい いいえ
27. 自分の知らない人はどうも信用できないので、面識のない人に
会うのを努めて避けている …………… はい いいえ
28. 出来るだけ人を喜ばすことが好きである …………… はい いいえ
29. 新しく改善された方法を試みるよりも、古くても
これまでうまく行っていた方法が好きだ …………… はい いいえ
30. 時間がないので、自分にとって重要だ思う順番に
物事を行なうということは普通はできない …………… はい いいえ
31. 動植物を絶滅から守ることを行なうことが多い …………… はい いいえ
32. 自分が他人よりも頭が良かったらなあと思うことが多い …………… はい いいえ
33. 自分の敵が苦しむのを見ると嬉しくなる …………… はい いいえ
34. きちんと組織立っている（秩序正しい）のが好きで、
他人に対しても出来れば規則を決めてやりたい …………… はい いいえ
35. よく気が散るので、長時間同じことに関心を持ち続けるのは難しい …… はい いいえ
36. 繰り返し実行してきたことによって、多くの一時的な衝動や
説得より強い良い習慣が形づくられてきた …………… はい いいえ
37. 決心はいつも堅いので、他人がとっくに諦めた後でも
辛抱強く続ける …………… はい いいえ
38. 科学的に説明できない多くのこの世の物事に魅力を感じる …………… はい いいえ
39. 止（や）められたらなあと思う悪い癖がたくさんある …………… はい いいえ
40. 自分の困っていることを解決してくれるだれかが現れないかと
待つことが多い …………… はい いいえ
41. 現金をすっかり使い果してしまったり、クレジットで物を
買いすぎて借金することが多い …………… はい いいえ
42. 将来自分は幸運に恵まれると思う …………… はい いいえ
43. 他の人に比べると軽い病気やストレスからの回復が遅い …………… はい いいえ
44. 常に孤独でいることも別に苦にならない …………… はい いいえ
45. リラックスしているときに、不意に洞察や理解が
ひらめくことが多い …………… はい いいえ
46. 他人に好かれるとか、自分のやり方が他人に気に入られるとかは
あまり気に掛けない …………… はい いいえ
47. すべての人を満足させることはしよせん不可能だから、普通は

- 自分自身のために欲しいものを手に入れようと努力している はい いいえ
48. 私の考え方を受け入れない人々には我慢できない はい いいえ
49. 私はたいていの人をよく理解しているとは思えない はい いいえ
50. ビジネスで成功するために不正直になる必要はない はい いいえ
51. 時々、あらゆるものが、単一の生命体の一部であるように思えるほど、
自分が自然と大変強く結びついていると感じる はい いいえ
52. 会話では話し手よりも聞き手にまわるほうが得意だ はい いいえ
53. 他人に比べれば腹を立てやすい はい いいえ
54. 面識のない人達と会わなければならない時、人よりも
恥ずかしがり屋であると思う はい いいえ
55. 他人よりも情にもろい はい いいえ
56. 時々これから何が起ころうとしているのかを教えてくれる、
第六感が自分にはあるように思える はい いいえ
57. 誰かが、どんな方法にせよ、自分のことを傷つけたとき、
普通仕返しをするようにしている はい いいえ
58. 自分のコントロールできない力によって
私の態度は多く決められている はい いいえ
59. 自分の目標に向かって、日々いろいろな方法で努力している はい いいえ
60. 他の誰よりも強かったらなあと思うことが多い はい いいえ
61. 物事を決める前に長い時間考えるようにしたいと思っている はい いいえ
62. たいていの人よりも努力するほうだ はい いいえ
63. 疲れやすいので、昼寝をしたり、特別の休憩時間を必要とする はい いいえ
64. 他人の役に立つことが好きだ はい いいえ
65. どんな問題に直面しても、きつとうまく行くと常に考える はい いいえ
66. 十分お金が貯まった時でさえ、
自分のためにお金を使っても楽しめない はい いいえ
67. ほとんどの人が身の危険を感じるような状況でも、
たいてい落ち着いて悠然としている はい いいえ
68. 自分の悩みは自分の心にしまいこんでおくのが好ましい はい いいえ
69. 知り合ったばかりの人やあまり良く知らない人と、
個人的問題を話し合うことも苦にならない はい いいえ
70. 旅行したり未知の場所に行くよりも家にいるほうが好きだ はい いいえ
71. 自分自身を助けられないような弱い人を助けることを
賢明だとは思わない はい いいえ
72. たとえ他人が自分に不公平に接するときでさえ、
自分がその人を不公平に扱っているなら、心の平和は持てない はい いいえ
73. 普通人々はどのように自分が感じているかを私に言う はい いいえ
74. いつまでも若くいられたらなあと思うことが多い はい いいえ
75. 親友を失った場合、他人よりも強く取り乱す はい いいえ
76. 時々自分は、時間と空間の中で、制限も限界もない
何かの一部のように感じる はい いいえ
77. 言葉では説明できない他人との精神的なつながりをときどき感じる はい いいえ
78. たとえ他人が今までに自分に対して不公平だったとしても、
その人たちの気持ちを思いやるようにしている はい いいえ
79. 難しい規則や取り決めなしに物事をやれるようなのが良い はい いいえ
80. たとえ好意的でない人だと教えられている場合でも、

- その人たちの気もおそらくリラックスして外向的でいられるだろう … はい いいえ
81. 他人に比べると、将来何かがうまく行かなくなることを
心配することが多い …………… はい いいえ
82. 決心する前にすべての事柄の細部を十分に検討する方だ …………… はい いいえ
83. 現実的だったり頑固であるよりも、他の人に対して思いやりがあって
理解を示すことのほうが大切だと思う …………… はい いいえ
84. 自分の周りにある全てのものとの強い一体感を感じる事が多い …………… はい いいえ
85. スーパーマンのような特別な力があつたらなあと思う事が多い …………… はい いいえ
86. 他人が私をあまりにも支配しすぎている …………… はい いいえ
87. 自分が学んできたことを他人と分かち合うことが好きだ …………… はい いいえ
88. 宗教的な経験が、自分の人生の本当の目的を
理解することに役立ってきた …………… はい いいえ
89. 人々から多くのことを学ぶ事が多い …………… はい いいえ
90. 繰り返し実行してきたことで私は多くのことで上手になり、
それが私が成功するのに役立っている …………… はい いいえ
91. 自分でも言っていることが誇張か嘘であると知っているときでも、
たいていは他人を信用させることができる …………… はい いいえ
92. 軽い病気やストレスのときでも、十分な静養や、看護や、
励ましの言葉が無いと回復できない …………… はい いいえ
93. 破ってしまえば結局は苦しまずにはいられない、
生きていく上での原理があることを知っている …………… はい いいえ
94. 誰よりも金持ちになりたいとは思わない …………… はい いいえ
95. この世界をより良いところにするために、
自分自身の人生を喜んで賭けたい …………… はい いいえ
96. 何かについて長い間考えた末であっても、自分の論理的な
判断力よりも自分の感覚のほうを信じるようになった …………… はい いいえ
97. 時々私の人生はどんな人間よりも強く霊的な力に
導かれていると感じる …………… はい いいえ
98. 私に対して卑劣なだれに対しても卑劣になることを
楽しむ事が多い …………… はい いいえ
99. 極めて現実的で、感情では行動しない人間だという定評を得ている …… はい いいえ
100. 誰かと話している最中でも考えをまとめるのは簡単だ …………… はい いいえ
101. 不意の出来事に対する反応が強すぎて、後で後悔するようなことを
つい言ったりしたりしてしまう事が多い …………… はい いいえ
102. 感情的に訴えられると（例えば、身体障害児の援助を
頼まれたような時）強く感動させられる …………… はい いいえ
103. 物事を出来る限り立派にやりたいので、たいてい他人よりも
せっせとやっている …………… はい いいえ
104. 私には欠点がとても多いので、自分のことを大好きにはなれない …………… はい いいえ
105. 私にはあまりにも時間が無いので、自分の問題を長期的に
見た解決方法を探すことができない …………… はい いいえ
106. ただどうしていいかわからずに、問題を処理できない事が多い …… はい いいえ
107. 時の流れを止めることができたらなあと思う事が多い …………… はい いいえ
108. 第一印象で物事を決めることは嫌いである …………… はい いいえ
109. お金は貯めるよりも使うほうが好きだ …………… はい いいえ
110. 話を大きくして、面白くしたり、

- 人をからかったりするのが得意である はい いいえ
111. 友人との間にまずいことがあっても、たいていの場合は
友情をなんとか続けていくよう努力する はい いいえ
112. 当惑したり屈辱を受けたりしても、すぐそれを忘れ去ってしまう はい いいえ
113. いつものやり方を変えようとする、ひどく緊張したり、
疲れたり、心配するのでとても出来ない はい いいえ
114. 今までのやり方を変えようとする前にはたいてい、
どうして変えるのかひどく実際的なよい理由を求める はい いいえ
115. 私にいい習慣を付けさせるためには他人から多くの助けが必要だ はい いいえ
116. 超感覚的知覚（テレパシーや予知のようなもの）は
本当に可能であると思う はい いいえ
117. いつも暖かくて身近な親友を持っていたい はい いいえ
118. 長い間あまりうまく行かない場合でも、よく何遍も同じことを
繰り返してやる はい いいえ
119. たいていの人心配そうにしている場合でも、
いつも気楽でリラックスしている はい いいえ
120. 悲しい歌や映画はとても退屈だ はい いいえ
121. 事情によって、自分の意志に反することをしよう
強えられることが多い はい いいえ
122. 自分と異なる人たちががまんすることは難しい はい いいえ
123. 奇跡と呼ばれることのほとんどは、単なる偶然にすぎないと思う はい いいえ
124. 誰かが私を傷つけたとき、その人に仕返しするよりも親切にしたい はい いいえ
125. 自分のしていることに夢中になりすぎて、まるで時間と
空間から切り離されたようにしばらく我を忘れることが多い はい いいえ
126. 自分の人生の目的の本当の意味を持っているとは思わない はい いいえ
127. できるだけ他人と協力しようとしている はい いいえ
128. 自分でやったことの結果に満足しており、別にこれ以上
立派にやりたいとは思っていない はい いいえ
129. たとえ人が危険なことは全くないと思う場合でさえ、
慣れない状況では緊張し心配することが多い はい いいえ
130. あまり物事を深く考えずに本能や予感や直感に従うことが多い はい いいえ
131. 人の望むようなことをしないので、他人は私を独立心が
強すぎると思うことが多い はい いいえ
132. 自分の周りの全ての人々との精神的な、あるいは情緒的な
強いつながりを感じる人が多い はい いいえ
133. 普通自分と違った価値観をもっている人を好きになるのは簡単だ はい いいえ
134. 他人がもっと期待していようと、仕事は出来るだけ
僅かしかやらないようにしている はい いいえ
135. 良い習慣というのは、自分にとって「第二の天性」になった。
それは、ほとんどいつでも、反射的で自発的な行動である はい いいえ
136. 私が何かについて知っているよりも、他人の方が
多く知っている事実は別に気にならない はい いいえ
137. 普通「相手の立場になって」考えるようにしているので、
本当にその人を理解することができる はい いいえ
138. 公正とか誠実というような原理は、私の人生のある面においては、
ほとんど役に立たない はい いいえ

139. 他人より金を貯めるのが上手だ はい いいえ
140. 取り乱したりフラストレーションを感じずることはまずない。
何かうまく行かない時にはすぐ別のことに切りかえている はい いいえ
141. たいていの人がどうでもいいと思うことでも、
何でもきちんと秩序正しく物事をやるのにこだわることが多い はい いいえ
142. ほとんどすべての社会的な状況下でやっていける
確かな自信を持っている はい いいえ
143. 自分の内心を滅多に人に教えることがないので、
私の気持ちを理解するのは友達でさえも難しいと考えている はい いいえ
144. 新しくてもっと良いやり方があると大勢の人に
いくら言われたとしても、自分のやり方を変えるのは嫌だ はい いいえ
145. 科学的に説明できないことを信じるのは愚かなことだと思う はい いいえ
146. 敵の苦しむ様子を想像するのが好きだ はい いいえ
147. 人よりも精力に溢れていて疲れにくい はい いいえ
148. 何事をする場合にも細かい点にまで気を配りたい はい いいえ
149. 友人から全てうまく行くとと言われても、心配になって、
やっていることを中止する場面が多い はい いいえ
150. 他の誰よりも力強かったらなあと思うことが多い はい いいえ
151. 何をするか普通自由を選ぶことができる はい いいえ
152. 自分のしていることに没頭しすぎて、
しばらく自分がどこにいるのか忘れてしまうことが多い はい いいえ
153. チームのメンバーは、自分の正当な分け前を
めったにもらえないものだ はい いいえ
154. 2~3時間も静かにじっとしているよりは、危険なこと
(例えばハング・グライダーやパラシュートジャンプ)でも
やってみたいといつも望んでいる はい いいえ
155. いつも衝動買いをするので、たとえば旅行のような
特別な計画のためにさえも貯金が出来ない はい いいえ
156. 他人を喜ばせるのに特に努力する気はない はい いいえ
157. 見知らぬ人と会うのは全く恥ずかしくない はい いいえ
158. 友人の希望に嫌と言えないことが多い はい いいえ
159. 自分の時間のほとんどを私にとってはそれほど重要ではないが
必要だと思われることをするのに費やしている はい いいえ
160. 何が正しく、何が間違っているかについての
宗教的あるいは道徳的原理は、ビジネスの上での決定に
大きな影響を及ぼすとは思わない はい いいえ
161. 他人の経験をより良く理解することができるように、
自分自身の判断は考えないようにしていることが多い はい いいえ
162. 私の習慣の多くが、価値のある目的を達成するのを困難にしている はい いいえ
163. 戦争や貧困、不正を防ぐよう努力するというように、世界を
より良い場所にするため、実際に個人的な犠牲を払っている はい いいえ
164. 将来恐ろしいことが起こるだろうかなどと心配したことは全くない はい いいえ
165. 自分を見失うほど憤激することは滅多にない はい いいえ
166. 自分が思ったよりも多くの時間がかかりすぎるなら、
仕事を放り出してしまうことが多い はい いいえ
167. 誰かが話し掛けてくれるのを待っているよりも、

- | | | | |
|------|--|----|-----|
| | 自分から話し始めるほうが好きだ | はい | いいえ |
| 168. | ほとんどいつも、私に意地悪した人をすぐに許す | はい | いいえ |
| 169. | 私の行動は私がコントロールできないものの影響で
多く決定されている | はい | いいえ |
| 170. | 直感の狂いや第一印象の間違いから、決めたことを後で
変えなくてはならないことが多い | はい | いいえ |
| 171. | 誰かが先頭に立って物事を進めるのを待っているほうが好きだ | はい | いいえ |
| 172. | 他人の意見をいつも尊重する | はい | いいえ |
| 173. | とても興奮して幸せな気分になるほど人生における
自分の役割を自分にとても明らかにする経験がある | はい | いいえ |
| 174. | 自分のために物を買うのは楽しい | はい | いいえ |
| 175. | 自分が超感覚的知覚を経験したことがあると確信している | はい | いいえ |
| 176. | 私の頭脳はきちんと働いていないと信じている | はい | いいえ |
| 177. | 私の行動は、私が自分の人生のために定めたある目的によって
強力に導かれている | はい | いいえ |
| 178. | 他人の成功を助けることなど普通はばかっている | はい | いいえ |
| 179. | 永遠に生きることができたらなあと思うことが多い | はい | いいえ |
| 180. | 冷静で他の人から超然としていることがたいていは好きだ | はい | いいえ |
| 181. | 多くの人よりも、悲しい映画を見ると声をあげて
泣いてしまいやすい | はい | いいえ |
| 182. | 軽い病気やストレスから回復するのが人よりも早い | はい | いいえ |
| 183. | うまく逃げ切れることができると思えば規則や取り決めなんか
無視することが多い | はい | いいえ |
| 184. | 多くの飛びつきたくなるような状況で自分自身を信用できるように
なる前に、良い習慣を培うもっと多くの訓練が必要だ | はい | いいえ |
| 185. | 他人が今ほど話をしなければいいのにとと思う | はい | いいえ |
| 186. | たとえ、その人が重要でないか、悪い人間にみえたりしても、
誰もが尊厳や尊敬をもって扱われるべきである | はい | いいえ |
| 187. | しなければならないことを出来るよう
迅速な決定をすることが好きだ | はい | いいえ |
| 188. | 試そうとすることは何によらず、たいてい運が回ってくる | はい | いいえ |
| 189. | 他人が危険と考えるようなことでも簡単にやってみせる
自信がたいていある（例えば、濡れた道路や凍結した道路で
車を速いスピードで走らせることなど） | はい | いいえ |
| 190. | よほど成功の公算がない限り、それを続ける意義はないと思う | はい | いいえ |
| 191. | 何かをする新しい方法を探求することが好きだ | はい | いいえ |
| 192. | 娯楽やスリルのためにお金を使うよりも、お金を貯め込むほうに
喜びを覚える | はい | いいえ |
| 193. | 個人の権利は、どんな集団の要求よりも重要である | はい | いいえ |
| 194. | 神聖ですばらしい霊的な力に触れたように感じた
個人的な経験がある | はい | いいえ |
| 195. | 存在する全てのものとの明確で深遠な一体感を突然感じ、
大いなる喜びの瞬間を経験したことがある | はい | いいえ |
| 196. | 良い習慣のおかげで、私がやりたい方法で
物事を行なうのが容易にできる | はい | いいえ |
| 197. | たいていの人々は私より手助けを多く持っている | はい | いいえ |

198. 私の問題は、他の人や状況のせいであることが多い はい いいえ
199. 他人を助けることは、たとえその人にひどく扱われても、
私に喜びを与えてくれる はい いいえ
200. 私が全ての生命の源である霊的な力の一部分であると
感じる人が多い はい いいえ
201. 友達と一緒にいる時でさえも、ひどく心を開かないほうが好ましい はい いいえ
202. 別に頑張らなくても、たいてい一日中元気潑刺（はつらつ）と
していることが出来る はい いいえ
203. たとえ早く決めるように他人に言われても、決定する前には
ほとんどいつもすべての事柄の細部を十分に検討する はい いいえ
204. 何かまずいことをしてつかまった時に、
言葉で問題を切り抜けるのは上手でない はい いいえ
205. たいていの人に比べて完全主義者だ はい いいえ
206. 物事が正しいかまちがっているかは、単に考え方の問題だ はい いいえ
207. 私の自然な反応は今では普通、自分の主義と長い目でみた目的と
一致していると思う はい いいえ
208. 全ての生物は、完全には説明できない何か霊的な秩序や力に
依拠していると信じている はい いいえ
209. たとえ私のことを怒っていると教えられても、初対面の人と
自信をもってリラックスして会うことができる はい いいえ
210. 近づきやすいと見えて、よく人から頼りにされたり同情や
理解を求められたりしやすい はい いいえ
211. 新しい考えや活動に対する反応が人に比べてゆっくりしている はい いいえ
212. たとえそうしなければ誰かの気持ちを害するような場合でも、
嘘をつくことがなかなかできない はい いいえ
213. 好きでない人々が何人かいる はい いいえ
214. 誰よりももっと賞賛されたくはない はい いいえ
215. ありふれたのものを見たときでも、初めて、それを新鮮に見ている
ような気がするというような、何か素敵なことが起こることが多い はい いいえ
216. 私の知っているたいていの方は、たとえ誰が傷つけられても、
自分のことばかりを考える はい いいえ
217. 新しく、慣れない物事をやる場合はたいてい緊張して心配する はい いいえ
218. くたびれ果てるまで止めないか、自分の能力以上に
物事をしようとする人が多い はい いいえ
219. 私のことをケチで金にこまかいと思う人もいる はい いいえ
220. 神秘的な経験の報告は、恐らくただの
希望的な思い過しにすぎないだろう はい いいえ
221. たとえ、その結果自分が苦しむことになる分かっていても、
私の意志はとても弱いので、
とても強い誘惑には打ちかつことはできない はい いいえ
222. 誰かが苦しんでいるのを見るのは嫌だ はい いいえ
223. 自分が人生を賭けてやりたいことを承知している はい いいえ
224. 自分のしていることが正しいか間違っているか、
いつも時間をかけてよく考える はい いいえ
225. 大変注意していない限り、物事がうまくいかないことが多い はい いいえ
226. 取り乱している時は独りにされるよりも友達が傍らにいる方がよい はい いいえ

227. 同じ経験をしたことがない人間と、気持ちを分かち合うことができるとは思わない はい いいえ
228. 私が自分の周りで起こっていることに全く気が付かないので、他人には私が違う世界に住んでいるように思われることが多い はい いいえ
229. 誰よりも見かけが良かったらなあと思う はい いいえ
230. このアンケートにたくさん嘘をついてきた はい いいえ
231. たとえ友好的な人だと教えられていても、見知らぬ人と
会わねばならないような状況は努めて避けている はい いいえ
232. 古い友人に再会するのと同じくらい、春に花が咲くのが大好きだ はい いいえ
233. 普通難しい局面を挑戦や好機だとみている はい いいえ
234. 私と関わりのある人間は、
私なりの物事のやり方を学ばなくてはならない はい いいえ
235. 不誠実というのは、もしそれがばれたら、問題を引き起こすだけだ はい いいえ
236. 軽い病気やストレスの後でさえも、たいいていの人より自信に満ちて
元気がある はい いいえ
237. どんな書類にサインを求められたときでも、
すべてを読むことが好きだ はい いいえ
238. 目新しい出来事がないときは、スリルに富むことや
興奮するようなことを探し求めることが多い はい いいえ
239. 私はときどき取り乱す はい いいえ
240. 私はときどき他の人の陰口を言う はい いいえ

お名前： 年齢： 生年月日： / /
性 別： 男 女 ご職業： 記入日： / /

付表2 TCI採点法

各設問は下線が引いてあれば「はい」に1点「いいえ」に0点を与え、下線が引いて
あれば「はい」に0点「いいえ」に1点を与える。

*のついている項目は、125項目版でも用いられる項目である。

新奇性追求

NS1	探求心 (vs. 厳格)	11項目
	1*, 29, <u>52</u> , <u>70</u> , <u>99</u> , <u>114*</u> , <u>144</u> , 167, 191*, <u>211</u> , 238*	
NS2	衝動 (vs. 熟考)	10項目
	13*, 35, <u>61*</u> , <u>82*</u> , <u>108</u> , 130*, <u>148</u> , 187*, <u>203</u> , <u>237</u>	
NS3	浪費 (vs. 儉約)	9項目
	<u>19*</u> , <u>41*</u> , <u>66</u> , 109*, <u>139*</u> , 155, 174, <u>192*</u> , <u>219</u>	
NS4	無秩序 (vs. 組織化)	10項目
	<u>34</u> , 53, <u>79*</u> , <u>91*</u> , <u>110*</u> , <u>141*</u> , <u>165</u> , 183*, <u>204</u> , <u>212</u>	
NS	新奇性追求総合点 NS1+NS2+NS3+NS4	40項目

損害回避

HA1	予期懸念・悲観 (vs. 無抑制の楽観)	11項目
	<u>2*</u> , 20, <u>42</u> , <u>65</u> , 81*, <u>112*</u> , <u>119*</u> , 149*, <u>164</u> , <u>188</u> , 225	
HA2	不確実性に対する恐れ	7項目
	12*, 26, <u>67*</u> , 129*, <u>154</u> , <u>189*</u> , 217*	
HA3	人みしり	8項目
	27*, 54*, <u>80*</u> , <u>100</u> , <u>142*</u> , <u>157*</u> , <u>209</u> , 231	
HA4	易疲労性・無力症	9項目
	22*, 43, 63, 92, 113*, <u>147*</u> , <u>182*</u> , <u>202</u> , <u>236*</u>	
HA	損害回避総合点 HA1+HA2+HA3+HA4	35項目

報酬依存

RD1	感傷	10項目
	3, 28*, 55*, 83, 102*, <u>120*</u> , 158, 181*, 210, 224	
RD3	愛着	8項目
	21*, <u>44</u> , <u>68</u> , 117, <u>143*</u> , <u>180*</u> , <u>201*</u> , 226*	
RD4	依存	6項目
	<u>14*</u> , <u>46*</u> , <u>71*</u> , <u>131*</u> , <u>156*</u> , <u>193</u>	
RD	報酬依存総合点 RD1+RD3+RD4	24項目

持続

P	持続	8項目
	<u>11*</u> , 37*, 62*, 103*, <u>128</u> , <u>166</u> , 205, 218*	

自己志向

SD1	自己責任 (vs. 他人非難)	8項目
	<u>4*</u> , <u>24*</u> , <u>58*</u> , <u>86*</u> , <u>121*</u> , 151, <u>169</u> , <u>198</u>	
SD2	目的指向性 (vs. 目的指向性の欠如)	8項目

	<u>9*</u> , <u>30</u> , <u>59</u> , <u>105*</u> , <u>126*</u> , <u>159*</u> , <u>177*</u> , <u>223</u>	
SD3	臨機応変	5項目
	<u>40*</u> , <u>106*</u> , <u>171*</u> , <u>197*</u> , <u>233*</u>	
SD4	自己受容	11項目
	<u>32*</u> , <u>60*</u> , <u>74</u> , <u>85*</u> , <u>94</u> , <u>107</u> , <u>136</u> , <u>150*</u> , <u>179</u> , <u>214</u> , <u>229*</u>	
SD5	啓発された第二の天性	12項目
	<u>17</u> , <u>36</u> , <u>39</u> , <u>90</u> , <u>104*</u> , <u>115</u> , <u>135</u> , <u>162*</u> , <u>184*</u> , <u>196</u> , <u>207*</u> , <u>221*</u>	
SD	自己指向総合点 SD1+SD2+SD3+SD4+SD5	44項目

協調性

C1	社会的受容性 (vs. 社会的不寛容)	8項目
	<u>5*</u> , <u>16*</u> , <u>48*</u> , <u>89</u> , <u>122</u> , <u>133</u> , <u>172*</u> , <u>234*</u>	
C2	共感 (vs. 社会的無関心)	7項目
	<u>25*</u> , <u>49</u> , <u>73*</u> , <u>137*</u> , <u>161*</u> , <u>185*</u> , <u>227</u>	
C3	協力 (vs. 非協力)	8項目
	<u>10*</u> , <u>47*</u> , <u>64</u> , <u>87*</u> , <u>127</u> , <u>153*</u> , <u>178*</u> , <u>216</u>	
C4	同情心 (vs. 復讐心)	10項目
	<u>7*</u> , <u>33</u> , <u>57*</u> , <u>78</u> , <u>98</u> , <u>124*</u> , <u>146*</u> , <u>168</u> , <u>199</u> , <u>222*</u>	
C5	純粋な良心 (vs. 利己主義)	9項目
	<u>18*</u> , <u>50</u> , <u>72*</u> , <u>93</u> , <u>138*</u> , <u>160*</u> , <u>186*</u> , <u>206</u> , <u>235</u>	
C	協調性総合点 C1+C2+C3+C4+C5	42項目

自己超越性

ST1	霊的現象の受容 (vs. 合理的物質主義)	13項目
	<u>6</u> , <u>38</u> , <u>56*</u> , <u>77*</u> , <u>88</u> , <u>97*</u> , <u>116</u> , <u>123</u> , <u>145</u> , <u>175</u> , <u>194*</u> , <u>208*</u> , <u>220</u>	
ST2	自己忘却 (vs. 自己意識経験)	11項目
	<u>8</u> , <u>23</u> , <u>45*</u> , <u>76*</u> , <u>96</u> , <u>125*</u> , <u>152</u> , <u>173</u> , <u>195*</u> , <u>215*</u> , <u>228</u>	
ST3	超個人的同一化 (vs. 自己弁別)	9項目
	<u>15</u> , <u>31</u> , <u>51*</u> , <u>84</u> , <u>95</u> , <u>132*</u> , <u>163*</u> , <u>200*</u> , <u>232*</u>	
ST	自己超越性総合点 ST1+ST2+ST3	33項目
